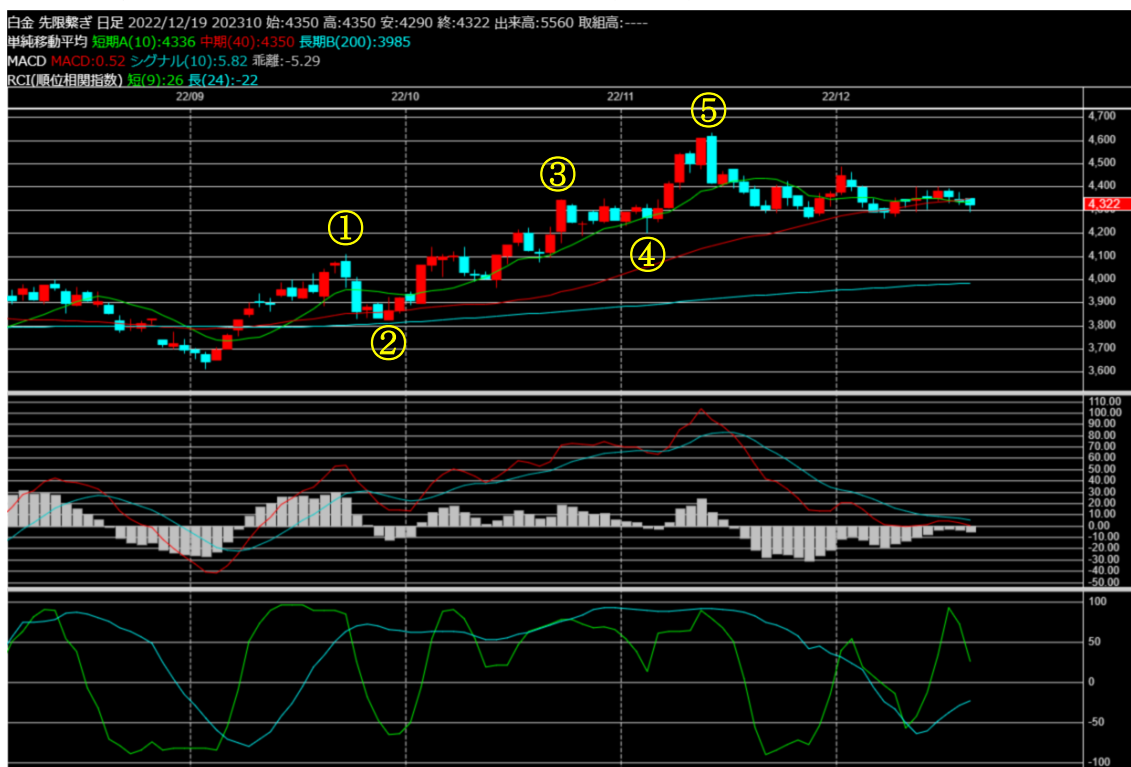


＜白金標準先物、再度 4263 円に向けた下値模索に注意・・・＞



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）を受けて 4403 円で高値を試すも、FOMC や ECB 理事会の利上げ実施にパウエル FRB 議長やラガルド ECB 総裁のインフレ抑制に重しを置き、長期に渡り政策スタンスを維持するとの言及に、景気後退懸念を急速に織り込む動きを見せている。

特に週末はブラックアウト明けでデーリー・サンフランシスコ連銀総裁は「労働市場は不均衡だ」とも指摘しながら「道のりはまだ長い」と発言し「当局の物価安定目標への到達はかなり先だ」と述べ、ウィリアムズ・NY 連銀総裁は「労働市場で需要が供給を上回っているという明確な兆候がある」と指摘し当面の高金利を正当化するとの見解を示している。また中国では中国経済工作会議で金融・財政政策による景気刺激と、民間企業の支援を強化していく方針を決めたが、国内ワクチンの効果が期待できない事からゼロコロナ政策が解除された北京や上海などの大都市で急速な感染拡大を受け市民生活はマヒ状態になっている。その事から景気商品である白金標準先物は、NY 白金の 1000 ドルを割り込む値動きに押されて 4300 円の攻防を見せている。ただテクニカルの悪さを受けて今週は再度 4263 円を試す値動きに注意した方が良いと思われる。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD が切り下げながらシグナルも切り下げており、RCI でも短期が下げながら、長期は切り上げている。特に 10 日移動平均線が 40 日移動平均線を下回り、日足が下げるなど基調の弱さが示されている事からも今週は下値追いの値動きに警戒した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2022 年 12 月 19 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 12 月 19 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>